

令和元年度第1回埼玉県職業能力開発審議会 議事録

開催日：令和元年9月9日（月）午後1時30分～3時30分

場 所：川口高等技術専門校（技能講習室他）

出席者：岩脇 千裕 委員（会長職務代理者）、小岩 佳江 委員、内沼博史 委員、
高橋 尚樹 委員、古木 孝典 委員、木塚 欽也 特別委員
（委員10人中6人が出席し、会議は成立）

傍聴者：なし

事務局：勝村 直久 雇用労働局長、
産業人材育成課 田口 修 課長、川口高等技術専門校 佐々木 亨 校長、
産業人材育成課 吉野 繁雄 副課長、雇用労働課 鎌田 茂樹 副課長、
シニア活躍推進課 佐々木 卓 副課長、ウーマノミクス課 仲田 孝幸 副課長、
高校教育指導課 小出 和重 教育指導幹

【議事等の経過】

- 1 開会（司会進行 産業人材育成課・吉野課副課長）
- 2 挨拶（勝村雇用労働局長）
- 3 新任委員の紹介（内沼 博史 委員の紹介）
- 4 議事

議事録署名人の選出

○ 会長職務代理者

それでは議事に入りたい。まず、議事録署名人の指名だが、本日は、高橋委員、古木委員にお願いしたい。

（各委員了承）

（1）「第10次埼玉県職業能力開発計画の取組状況について」

（資料1-1、1-2により産業人材育成課長が説明、その後意見交換が行われた。）

○ 会長職務代理者

ただ今の説明に御質問、御意見等があれば、御発言をお願いしたい。

○ 委員

資料1-1の施策指標について、「1 多様な人材の力を引き出す「人財開発」のうち「民間教育訓練機関等に委託して実施する職業訓練の受講者の就職率」だが、平

成30年度の就職率が73.9%で、四人に一人は就職できていない。委託先によって就職率に違いはあるのか。

また、令和2年度の目標値が75%で、根拠は平成27年度の全国平均値74.9%だが、かなり期間が開いている。直近の全国平均値はどうなっているか。

○ 産業人材育成課長

就職率の全国平均値について、直近は平成29年度の数字だが74.9%で、平成27年度の数字と同じ。平成28年度は74.6%であり、ほぼ横ばいと言える。

個々の委託先別の数字は手元がないが、分野別で言うと、平成29年度の実績で介護が80.2%、医療事務が67.5%、ITが70%と分野によって差がある。介護の就職率が高い理由だが、就職に対する意欲が強い人が多く入校していることが理由と思う。

○ 委員

私も就職支援の経験があるが、医療事務を目指すような方に対して、福祉や介護の仕事の良さをアピールして、介護に関心を持ってもらうことが重要ではないか。医療事務などデスクワークの希望が多いのは分かるが、就職という部分では、介護に希望を転換してもらうことも必要と思う。

○ 会長職務代理者

他に御質問等がなければ議事(1)を終了する。

(2)「川口高等技術専門校の概要及び校内視察」

(資料2-1、2-2により川口高等技術専門校長が説明、その後、意見交換、校内視察を実施)

○ 会長職務代理者

ただ今の説明に御質問、御意見等があれば、御発言をお願いしたい。

○ 委員

訓練の受講生についてだが、働きながら受講をしている人が多いのか、それとも通常の学生のように訓練に専従している人が多いのか、その割合を教えてください。

○ 川口高等技術専門校長

当校の設置4科目(情報処理科、空調システム科、機械科(デュアルシステム)、ビル管理科、期間6か月~2年、平成30年度受講者数123人)は求職者向け訓練なので、これから就職を目指す人=働いていない人が受講対象である。

働いている人対象の訓練は、資料2-1の「3 企業への支援」記載の2日から3

日の講座が該当し、平成30年度の受講者数は547人である。

おおよそ、働いていない人1に対し、働いている人が4の割合となっている。

○ 委員

二点教えてほしい。

一点目は、第10次埼玉県職業能力開発計画の中では、県内企業の人材確保が挙げられているが、こちらの修了生の就職先について、県内企業の比率はどれくらいか。

二点目は、情報処理科をめぐる環境変化は大きく、例えば、RPAなど様々なニーズが出てきているが、ここ1、2年で実施している新たなメニュー、新たな取組があれば教えてほしい。

○ 川口高等技術専門校長

まず、就職の内定状況だが、空調システム科や情報処理科については、待遇面などもあって、東京の企業が多くなっている。

空調システム科については修了生30人のうち、県内企業に就職したのは1人。情報処理科については修了生30人のうち、県内企業に就職したのは7人。

東京の企業の県内支店に勤める場合もあるだろうが、表面的には東京の企業への就職が多いという結果になる。

機械科については県内就職が多い。ビル管理科については、ビル管理会社が都内にあることが多いので、やはり東京の会社への就職が多い。

次に、情報処理科の話だが、C言語、J A V A及びC O B O Lを教えている。新しい言語をメニューに加えたい気持ちもあるが、県立の施設として、まずはベーシックな言語を訓練させたいという方針である。新しい言語については、もう少し普及してからということで、様子見をしている状況である。

○ 会長職務代理者

他に御意見、御質問等がなければ、校内視察としたい。

(事務局の説明後に校内視察を実施、視察内容及び主な質疑は以下のとおり)

空調システム科

内容：1年生 シーケンス制御

質疑：Q 国家資格の取得について（資格が必要か）。

A 免許資格であり、仕事に必要。八つの資格を取得する。

Q 家業が空調業界の人はいるか（2代目の養成）。

A 1年生に1人いる。

Q 中小企業へ就職する人はいるか。

A 県内の中小企業への就職もある。

機械科（デュアルシステム）

内容：1月生（ワイヤーカット作業・マシニングセンター作業・磨き作業）

7月生（フライス盤作業）

質疑：Q 企業からの要望はNC旋盤（NC）・マシニングセンター（MC）が多いのか。

A 汎用機（旋盤・フライス盤）の方が要望は多い。会社にNC・MCがあるので操作を教えることができる。しかし、汎用機がなくなってきており、基礎（切削加工）を身に付けさせることが困難なため、高等技術専門校で教えてほしいとの声がある。

訓練生には、現場に入った際に抵抗がないよう、NC・MCについても実習で操作を教えている。

ビル管理科

内容：2級ボイラー技士受験対策

質疑：Q 県内企業への就職状況はどうか。

A 本社所在地は都内の企業が多いが、勤務地は県内が多い。

情報処理科

内容：プログラミング実習（C言語、文法説明、課題作成）

質疑：なし

（視察終了後）

○ 会長職務代理者

川口高等技術専門校の訓練生や訓練現場を視察したが、御意見、御質問等があればお願いしたい。

○ 委員

非常に実践的という感想を持ったが、入校倍率はどれくらいか。

○ 川口高等技術専門校長

情報処理科が約2倍、空調システム科が約1倍、機械科が約0.5倍、ビル管理科は約1倍となっている。

○ 委員

求職者はハローワークで当校のことを知ると思うが、地域の高校生はどういった形

で当校を知って応募してくるのか。

○ 川口高等技術専門校長

高校生については進路指導の先生の力が大きいので、以前に生徒が当校に応募・入校した実績がある高校に当校の職員が募集時期ごとに足を運び、PRをしている。

また、高校生が企業や職業訓練校を巡るバスツアーがあり、そのコースに当校を加えてもらうなどの取組もしている。

○ 会長職務代理者

他に御質問はないか。なければ、(2)の議題を終了させていただく。

次に、議事(3)「その他」について、事務局から何かあるか。

○ 産業人材育成課長

次回の審議会の日程だが、来年の2月に実施したいと考えている。詳細は、後日調整させていただきたい。

○ 会長職務代理者

それでは、次回は来年2月開催という方向で日程調整をお願いします。

以上で本日の審議会を終了とする。